

授業科目名	家庭科教育法	教員名	白石 知子 (実務経験のある教員)	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	
授業形態	演習	担当形態	単独	卒業要件	保育士	
科目番号	SID314	配当年次	3年前期		こども音楽療育士	
単位数	2単位			小幼コース	必修	
単位数	2単位	幼保コース	選択			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一般目標	<p>小学校学習指導要領『家庭』の内容を分析・検討し、家庭科教育に関する基礎的な知識や実践の方法・技術について理解を深めさせ、指導者としての資質を身に付けさせることを目標とする。</p> <p>(1)家庭科の目標及び内容 学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2)家庭科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1)家庭科の目標及び内容</p> <p>1)学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</p> <p>3)家庭科の学習評価の考え方を理解している。</p> <p>4)家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>(2)家庭科の指導方法と授業設計</p> <p>1)子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</p> <p>2)家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</p> <p>3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</p> <p>4)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
SDGsとの関連	本演習は、国連が目指すSDGsと関連した内容を含む。SDGs目標(持続可能な開発目標)のうち、「目標1 貧困をなくそう」「目標2 飢餓をゼロに」「目標3 すべての人に健康と福祉を」「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」「目標7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「目標11 住み続けられるまちづくりを」「目標12 つくる責任、つかう責任」と関連する。家庭科教育では、家庭生活や社会環境の変化に対応できる資質・能力を育成する。家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続の可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応するためにも、関連するSDGs目標をふまえて実践的・体験的な学習の取組みを目指した指導法を工夫させる。					
授業の概要	<p>家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>家庭科学習は児童に「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して基礎的・基本的な知識および技能を身に付け、家庭生活を大切にす心情をはぐくむ」ことから、①生活における様々な問題点を解決方法する問題解決的な学習を追及・実践し、思考力・判断力・表現力をはぐくみ言語活動の充実を図る授業とする。②社会の変化に対応した豊かな心と確かな実践力をはぐくむため</p>					

	<p>に、少子高齢化や食育の推進、持続可能な社会の構築などを十分理解させ、体験的な学習を取り入れ実践力を身に付けることにつながる授業とする。③家族の一員としての自覚を高め、家庭生活を大切にする心情をはぐくむ授業とする。授業形態は、演習とし、作成した指導案をもとに行なう模擬授業は情報機器及び教材の活用や評価方法にも目を向けさせ、レポート等でふりかえをさせる。</p>
授 業 計 画	<p>第1回：小学校家庭科の基本的な考え方・家庭科の特質や中学校技術・家庭科や他教科との系統性や関連を調べ、「生きる力」を育むための教科の特性を改訂の要点を中心に学ぶ。(目標(1)-1)</p> <p>第2回：学習指導要領の内容分析と理解1・改訂内容を重点的に、家庭科で育成する資質や能力の側面から考え、家庭科の目標と各学年の目標の内容を中学校技術・家庭科家庭分野との系統性を考えながら検討し、特徴を学ぶ。また、内容構成の基本的な考え方と改善を学ぶ。(目標(1)-1)</p> <p>第3回：学習指導要領の内容分析と理解2・家庭科の学習内容「家族・家庭生活」について、他内容との関連を考え、2年間を貫く視点を考え、家庭生活の実際の生活により近い学習の展開の仕方や教材研究の仕方を学ぶ。(目標(1)-2), 4)</p> <p>第4回：学習指導要領の内容分析と理解3・家庭科の学習内容「衣食住の生活①」について食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの学習活動を一層重視していることを踏まえ、実践的活動を行い、基礎的・基本的な知識・技能内容を学び、教材研究の仕方を学ぶ。(目標(1)-2), 4)</p> <p>第5回：学習指導要領の内容分析と理解4・家庭科の学習内容「衣食住の生活②」について、身の回りの快適さは、実態の改善などの演習課題に取り組み、身近な消費生活と環境との関連を考えながら学び、教材研究の仕方を学ぶ。(目標(1)-2), 4)</p> <p>第6回：学習指導要領の内容分析と理解5・家庭科の学習内容「消費生活と環境」について、他の内容との関連を図り、物や金銭の活用の視点から実践的な学習につながる演習を通して学ぶ。(目標(1)-2), 4)</p> <p>第7回：学習指導計画の作成・児童の実態を的確にとらえるとともに、内容・題材を選択し、2学年にわたっての作成・内容相互の関連・段階的な学習などに配慮した、学習指導計画を作成することによって学ぶ。(目標(1)-1), 2), 3)</p> <p>第8回：授業の構築・題材(A内容)を選定し、基本的な学習指導案の作成の仕方を学ぶ。その際、題材目標・指導観・指導計画・評価計画及び情報機器や教材の活用を研究・検討し作成する。(目標(2)-1), 3)</p> <p>第9回：授業の構築・題材(B内容)を選定し、基本的な学習指導案の作成の仕方を学ぶ。その際、本時の目標・学習指導過程・板書計画及び情報機器や教材の活用の内容を検討し作成する。(目標(2)-1), 2), 3)</p> <p>第10回：授業の構築・題材(C内容)を選定し、基本的な学習指導案の作成の仕方を学ぶ。その際、指導内容・指導方法・評価内容・評価方法・主発問・資料を評価検討し、それを改善する。(目標(2)-1), 2), 3)</p> <p>第11回：授業の実際及び検討会①・学習指導案に基づいて、模擬授業を実施・検討し合う。その際、発問の工夫、思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実、情報機器や教材の活用、評価の指導技法について、「家庭生活と家族」の内容で行う。(目標(2)-1), 2), 3), 4)</p> <p>第12回：授業の実際及び検討会②・学習指導案に基づいて、模擬授業を実施・検討し合う。その際、発問の工夫、思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実、情報機器や教材の活用、評価の指導技法について、「衣食住の生活…日常の食事と調理の基礎」の内容で行う。(目標(2)-1), 2), 3), 4)</p> <p>第13回：授業の実際及び検討会③・学習指導案に基づいて、模擬授業を実施・検討し合う。その際、発問の工夫、思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実、情報機器や教材の活用、評価の指導技法について、「衣食住の生活…快適な衣服と住まい」の内容で行う。(目標(2)-1), 2), 3), 4)</p> <p>第14回：授業の実際及び検討会④・学習指導案に基づいて、模擬授業を実施・検討し合う。その際、発問の工夫、思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実、情報機器や教材の活用、評価の指導技法について、「消費生活と環境」の内容で行う。(目標(1)-3), (2)-3), 4)</p> <p>第15回：家庭科の学習指導の工夫・模擬授業後の全体評価を行い、実践的・体験的な活動につな</p>

	<p>がる指導上の留意事項や評価を検討する。(目標(1)-3), (2)-4))</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>評価指標：基礎的・基本的な知識・技能が身に付く家庭科学学習指導案作成とそれに基づく模擬授業ができる。</p> <p>評価手段と割合：期末試験70%、学習指導案・レポート30%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：事前に課題を渡すので、児童の学ぶ姿を考えながら課題解決の方法を考え、不明な点を調べておくこと。その際、児童の生活に即した実践的な活動を考えること。</p> <p>事後学習：講義内容について整理し、生活にいかす具体的な方法をまとめておくこと。</p>
テキスト	<p>(開隆堂出版)『わたしたちの家庭科 小学校5・6年』(教科書)</p> <p>(東京書籍)『新しい家庭 5・6』(教科書)</p>
参考書・参考資料等	<p>『小学校学習指導要領(最新版)』『中学校学習指導要領(最新版)』</p> <p>『小学校学習指導要領(最新版)解説 家庭編』『中学校学習指導要領(最新版)解説 技術・家庭編』</p> <p>『小学校学習指導要領(最新版)解説 総則編』『中学校学習指導要領(最新版)解説 総則編』</p> <p>文部科学省 『言語活動の充実に関する指導事例集』(小学校)</p> <p>文部科学省 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』(小学校)</p> <p>開隆堂出版 『中学校技術・家庭科「家庭分野」』(教科書)</p> <p>東京書籍 『中学校技術・家庭科「家庭分野」』(教科書)</p>
担当者からのメッセージ	<p>特になし</p>
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること。)</p>
家庭	<p>担当教員は、小学校・中学校における教員(家庭)・校長としての経験を活かし、小学校における家庭科教育法の講義を行う。</p>